

平成29年度

天塩川シーニックバイウェイ 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月日:
----------------------	------------------------------	--------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	H29					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	メインコース周辺の景観整備	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ●ルート内の地域資源やビューポイント箇所について、ルートメンバーで自転車で試走しながら確認を行った。資源や立ち寄り箇所などは、サイクリングイベントでのコース設定に役立てるとともに、サイクルブック等(サイクルガイド虎の巻など)へ反映した。 ●「道と川」の周辺の安心・安全・快適なおもてなしの道づくりを目指し、継続的に実施。天塩川クリーンアップ大作戦は広域でポスターを作成しPRしているため、周知しやすいが、各地域での個々の取組については、実施時期や参加状況などの把握が難しいなどの課題が残った。
			ルートの景観診断	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	5月中旬～8月中旬	8名		
			花植え活動、除草、清掃活動	各地域(市町村、観光協会、商工会、地域団体等)	夏期:6月～10月末頃まで 冬期:1月中旬～2月下旬	各地域により		
地域	地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり	歴史・文化と森林文化の活用	森林資源の活用	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	7月～10月末まで	-		<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根付き、末永く愛着を持ってもらえるよう、地元木材を利用したオリジナルサイクルラックを地元で作成(中川町)し、要望に応じてルート内外への販売を行った。それにより、サイクリングコース上に同じラックが点在するようになり、統一感が出た。 ●地域住民を対象とした、サイクルガイド育成のための講習会を実施した。地元でのサイクリストも増え、今後の広がりに期待できる。(旭川開発建設部の協力による実施) ●平成30年は、北海道命名150年と松浦武四郎生誕200年の記念年となるため、武四郎と天塩川をキーワードとしたフォーラムを実施した。フォーラムに合わせて、天塩川周辺地域の特産品販売も行われ、参加者で賑わいを見せていた。
			地域ガイドの発掘・育成	道北観光連盟、ルート運営代表者会議、旭川開発建設部	8/6(日)	32名	T - 1	
			「森林」&「水」の教育	-	-	-		
			「松浦武四郎」にまつわる地域の文化伝承	テッシン・オ・ペツ賑わい創出協議会	2/4(土)	約150名		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月日:
----------------------	------------------------------	--------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	H29					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
観光	地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり	きた北海道エコ・モビリティ事業の推進 (主に、ルート内外を視野に入れた取組み)	ツアーの実施 (TEPPEN-RIDE 2017)	きた北海道エコ・モビリティ、 ルート運営代表者会議	9/1(金)~3(日)	約30名	T - 2	<p>●平成29年度は、天塩川SBWと宗谷SBWで連携して進めている「きた北海道エコ・モビリティ」事業の継続3年目の年であった。</p> <p>これまでの試走やモニターツアーなどを得て、広域でのサイクルイベント「TEPPEN-RIDE2017」を実施した。目の行き届いたサポートと心あるおもてなし、安全管理などの評価を頂いた。</p> <p>宗谷ルートを含め、近隣の地域団体・自治体・行政・企業等、多機関との繋がりが深まり、顔の見える連携体制が構築されたことが、何よりの成果であった。</p> <p>講習会や試走に参加してくれた地元サイクリストが、ガイドになってコースを引率してくれるなど、地元でガイドができる人材が豊富になった。また、サイクルガイドの要点がまとまった「虎の巻」を作成でき、今後も有効的に活用していきたい。</p> <p>日本語版のサイトを作成し、英語版、中国語版も作成した。</p> <p>オリジナルサイクルラックを、休憩ポイントの主要箇所でもあるルート内の道の駅に設置できた。稚内開発建設部管内でも購入いただき、サイクリングコース内に共通で設置できた。</p> <p>●ルートPR、新たな仲間の増強、活動への参画、ルートに対する意識醸成などを目的に、共通で使用できるルートロゴを作成した。平成30年度の総会後(H30.6月予定)から使用する。</p> <p>連携したポスターの作成はなかったが、ルート全域のパンフレットを、日本語版と英語版で作成した。</p> <p>指定ルートに向けて、幌加内のそば祭り、道庁赤レンガで、シーニックのPRをパネル等にて行った。物産販売等もあったため、立ち寄ってくれた方も多く感じた。(候補ルート時より継続事業)</p> <p>平成28年度に、情報拠点第一号をJR名寄駅「よろーな」に設置。今年度は、新たな情報拠点の設置までには至らなかった。</p> <p>●メインコースの設定については、本年度は、ルート内の冬期のアクティビティを抽出し、メンバー内で体験した。結果を整理し、次年度以降の周遊コース等の取組みに繋げたい。</p>
			情報発信の強化 (サイト、FB等の開設等)	きた北海道エコ・モビリティ、 ルート運営代表者会議	10月~2月末(継続)	-		
			勉強会等の開催	ルート運営代表者会議、道北 観光連盟、旭川開発建設部	7月~2月末	32名		
		ルート内連携による情報発信	ルートオリジナルロゴの作成	ルート運営代表者会議	10月~2月末(継続)	-		
			連携ポスター	ルート運営代表者会議、道北 観光連盟	4月~7月	-		
			各地イベントでのルートPR	ルート運営代表者会議、道北 観光連盟、旭川開発建設部	①9/2(土)・3(日)幌加 内、 ②10/12(木)・13(金)道 庁赤レンガ	①10名 ②30名 (いずれもスタッフ人 数)	T - 3	
		地域産業の活用	情報拠点の設置	-	-	-		
			ご当地グルメの開発	-	-	-		
		広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	道の駅との連携	ルート運営代表者会議、旭川 開発建設部	7月中旬~10月末頃	10名 (各道の駅で2名程度)		
			メインコースの設定	きた北海道エコ・モビリティ、 ルート運営代表者会議	5月中旬~8月中旬	10名		
				ツアーの実施	-	-	-	

天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：地域ガイドの発掘・育成

【概要】 地域への愛着・誇りの醸成へ繋がることを目的に、地域の魅力を伝える地元のサイクルガイドを発掘・育成を目指し、静岡県でサイクルツーリズムを通じたまちづくりを実践している講師をお招きし、当地域での実践に向けた内容の講習会を実施した。本年度に実施したサイクルイベントなどで、一部の参加者がコースを案内するサポートライダーとして活躍した。今後は、地元サイクリストの発掘とともに、今回作成したサイクルガイドブックも活用しながら、地域ガイド育成・広がりに向けて力を入れていきたい。★講習会の内容を活かし、講師にも確認いただきながらサイクルガイドの虎の巻を作成した。

【日時】 平成29年8月6日（日）10時～：座学編 13時～：実践編（実走）

【場所】 JR名寄駅前交流プラザ「よろーな」1階大会議室、名寄市内（約30km）

【主催】 道北観光連盟、天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議、旭川開発建設部

【参加人数】 全32名（講師：2名、一般参加：25名、主催者：5名）



座学編講師：佐藤雄一氏

（コンセプト株式会社 代表取締役）

ガイドサイクリストの役割やイベント運営体制、実施に向けた準備など、継続的に地域で続けていくための極意を教えていただいた。



実践編講師：山崎清一氏

（サイクルランドちゃりんこ オーナー）

現場での案内の仕方（手の合図、交通ルール等）、リスク管理、ガイドとしてあるべき姿など、名寄市内を実際に自転車で周遊しながらノウハウを教えていただいた。

天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：TEPPEN-RIDEの実施、情報発信の強化
(きた北海道エコ・モビリティ事業の推進)

【概要】 宗谷シーニックバイウェイと連携し、旭川から稚内の宗谷岬まで自転車で3日間、総距離約320kmを走るサイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」を実施した。参加者からは継続実施を求める声も多かった。継続的な事業実施のための資金確保や運営体制を強化するため、取組の周知を徹底し、「仲間」を増やしていけるような仕組みづくりが必要と考えている。また、「きた北海道エコ・モビリティ」のサイトを日本語版と英語版、中国語（繁体字）版を作成した。今後は、事前PR強化のため、サイトの見直し・追加と、Facebookやインスタグラム等を活用したPRにも力を入れたい。

【日時】 平成29年9月1日（金）～3日（日）

【場所】 1日目：旭川市～名寄市、2日目：名寄市～中川町、3日目：中川町～稚内市

【主催】 きた北海道エコ・モビリティ、天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議

【参加人数】 TEPPEN-RIDE 45名（参加者・サポートライダー・スタッフ込*日により変動あり）

TEPPEN-RIDE



▲ゴール地点「宗谷岬」にて。全員無事に完走。



▲休憩ポイント毎に地域からのおもてなし。



▲完走祝賀会（稚内市）

サイト



▲英語場サイト（TOP）

天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：各地イベントでのルートPR

- 【概要】 観光客等が集客するイベント会場にて、シーニックPRブースを設置し、シーニックバイウェイやルート活動の紹介などを行った。今回のイベント会場に限らず、ルート内の各地域で開催されるイベント等での展開など、様々なところで目に触れるような工夫をしながら継続的に実施し、取組の周知に繋げたい。また、シーニックの活動に賛同し、新たな仲間が増えること（活動への参画）も期待できる。
- 【日時】 ①平成29年9月2日（土）・3日（日）②平成29年10月12日（木）・13日（金）
- 【場所】 ①幌加内「新そば祭り」 ②道庁赤レンガ「沢山！特産！きた北海道フェア」
- 【主催】 ①旭川開発建設部、天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議
②道北観光連盟、天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議
- 【参加人数】 ①旭川開発建設部 約10名（会場全体来場者数約4万人）
②ルートメンバー 30名（来場者数は不明）

①新そば祭り



▲道路事業のパネル展とあわせてシーニックバイウェイの紹介をパネル展示にて行った。

①沢山！特産！きた北海道フェア



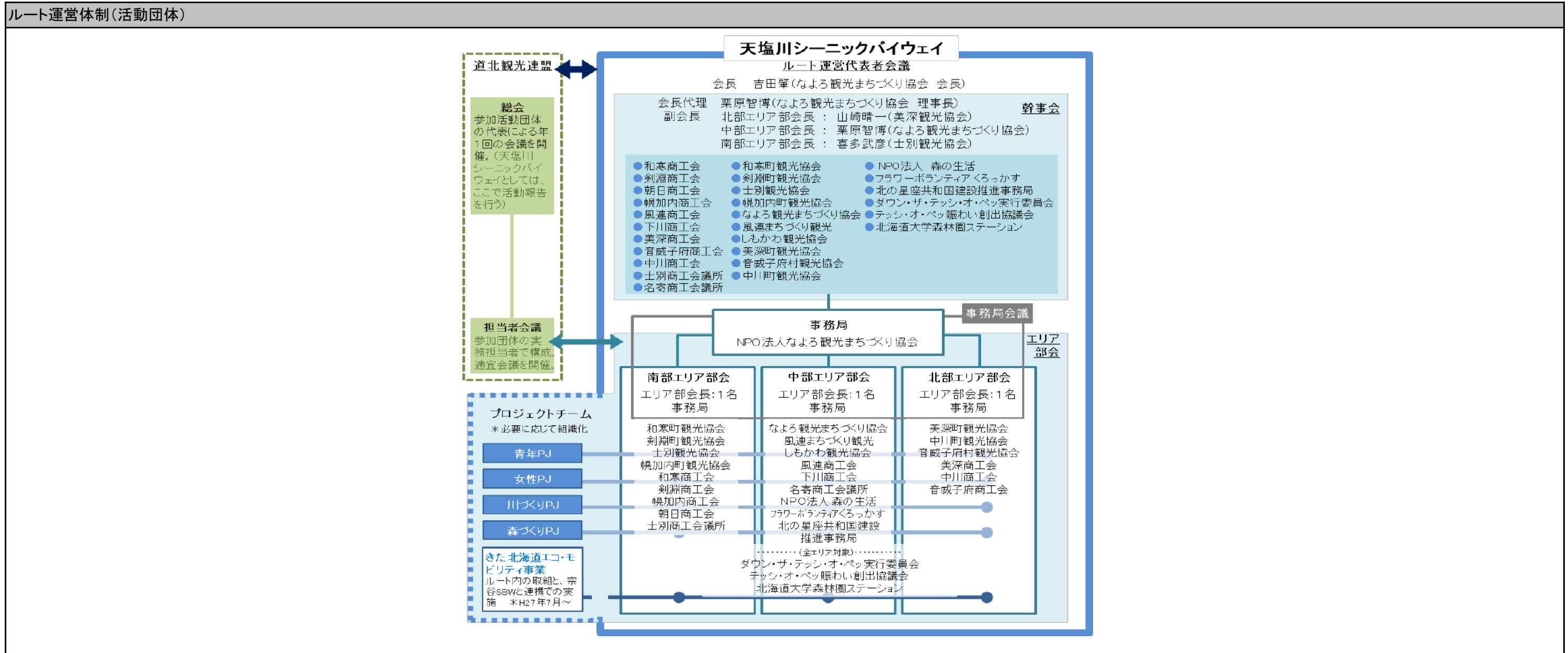
▲ルートメンバー（9市町村の観光協会・商工会）がお勧めする地域特産品の販売とあわせたPRブースを設置。あいにくの雨であったが、平日実施のため、通勤時や昼食時の札幌市民、観光名所でもあることから道内外・海外からの観光客といった、様々な方に地域の魅力を伝えることができた。

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2018/4/20
----------------------	------------------------------	-----------------

活動団体

和寒町観光協会／和寒町商工会／剣淵町観光協会／剣淵町商工会／士別観光協会／士別商工会議所／朝日商工会／幌加内町観光協会／幌加内町商工会／NPO法人なよろ観光まちづくり協会／NPO法人風連まちづくり観光／名寄商工会議所／風連商工会／NPO法人しもかわ観光協会／下川町商工会／美深町観光協会／美深町商工会／音威子府村観光協会／音威子府村商工会／中川町観光協会／中川町商工会／NPO法人森の生活／フラワーボランティアくろっかす／北の星座共和国建設推進事務局／テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会／ダウン・ザ・テッシ・オ・ペツ実行委員会／北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営 に関わる事 項	ルート運営代表者会議		●5/17	●6/15					●11/29					
	ルート幹事会、事務局会議		●5/25 事務局	●6/14 事務局					●11/7、30 事務局		●1/25 事務局			
	ルート担当者会議	●4/27			●7/18		●9/29		●11/16					
	その他			●6/24、25 審査委員視察			●9/1-3 天塩川×宗谷連 携イベント サイクルツーリス ム検討委員モデル コース視察	☆10/24 指定ルート認定 (推進協議会開催)					●3/21,22 石田委員 冬期ルート視察	

ルート名称: 天塩川シーニックパイウェイ 報告者: 天塩川シーニックパイウェイルート運営代表者会議 報告年月: 2018/4/20

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営 に関わる事 項	行政連絡会議・協働型道路管理 マネジメント会議の実施			●6/22 幌加内検討会、 現地確認	●7/7 幌加内協働除草 作業:1回目	●8/30 幌加内除草作業: 2回目			●11/29 上川北部地域検 討会			●2/28 幌加内検討会		

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:天塩川シーニックバイウェイ	報告者:天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2018/4/20
---------------------	-----------------------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成29年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	そばの花ビューポイントの除草作業(幌加内)	平成29年7月7日	旭川開発建設部、幌加内町(住民、観光協会、自治体等)	地域で設定したそばの花のビューポイントのうち、国道275号において、沿道の除草作業を、地域と時期を調整して道路管理者の機械除草を行った。時期調整により、同時期に雑草のない美しい景観が広がる効果が見られた。今後も継続的な実施を目指す。	現在は幌加内町を中心に実施しているが、上川北部の他地域でも同様の取組を展開できる。 ルート(地域)の動向や意向をくみつつ、沿道の景観向上に向けて、必要な箇所をピックアップし、できるところから優先順をつけて実施していきたい。	
		ルート内のビューポイント箇所等の確認と雑木伐採(幌加内)	平成29年6月	旭川開発建設部、幌加内町(住民、観光協会、自治体等)	地域住民と一緒にビューポイント箇所を確認した。地域資源・ビューポイント箇所である第三鉄橋が沿道の樹木で隠れて見えなくなっていたため、ルート審査委員視察を前に伐採した。地域からは感謝の言葉が添えられた。		
地域	地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり	サイクルラックの設置における道の駅との調整	平成29年7月～	旭川開発建設部	ルートで作成した地元木材を活用したサイクルラックの設置にあたり、北海道サイクルツーリズム推進検討委員会のモデルコースである国道40号沿線の道の駅を中心に、設置協力の調整を行い、了承を頂いた。サイクリストの主要休憩施設となる「道の駅」への設置は、取組のPRIにも繋がり、とても効果的であるとルートからの評価を頂いた。	ルート(地域)のみでは、内容によっては承諾等を頂くまでに時間を要することもあるが、道の駅との調整などは開発局の強みであると感じた。 また、サイクルツーリズム(本局)とルートのニーズを合わせて確認・調整し、それぞれの取り組みがより効果的に実施できるよう、常日頃からルートとの密な情報共有を心掛ける必要を感じた。	
		地域ガイド育成のための勉強会の開催とガイドブックの作成	平成29年7月中旬～2月末頃	旭川開発建設部(地域振興対策室)	年々増加傾向にあるサイクリストの観光客に伴い、地域側でのサイクルガイドが不足している状況にあった。地域でのサイクリストも増えてきているため、地元サイクリストがガイドとなれるような講習会の実施の支援を行った。また、広域のサイクルガイドブックを、地域意見等を踏まえて作成した。ルートとしてより効果的なガイドブックの今後の活用を期待したい。		
観光	地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり	TEPPEN-RIDEに関する関係機関との調整	平成29年7月中旬～9月 実施:9月1～3日	旭川開発建設部、北海道サイクルツーリズム検討委員会、きた北海道エコ・モビリティ	TEPPEN-RIDEの実施に合わせて、サイクルツーリズムで設定されたモデルコース1号の試走を実施。きた北海道エコモビリティ事務局とサイクルツーリズムとの調整、工程・スタッフ等の役割分担等の確認を行い、全体として無理のない効率的な運営を行った。当日は、スタッフ及びガイドサポーターとして同行し、一緒に試走した。(稚内開建も同行)	先進的な取組である「きた北海道エコモビリティ」において、取り組みの継続に向けた地域活動団体との密な情報共有を図る。	
		TEPPEN-RIDEの実施に合わせたサイクルツーリズムとの意見交換会の実施における調整・準備	平成29年7月中旬～9月 実施:9月2日	旭川開発建設部、北海道サイクルツーリズム検討委員会、きた北海道エコ・モビリティ	地域と委員との情報交換・交流の場として、中川町にて意見交換会を開催した。北海道でサイクルツーリズムを進めていくにあたり、地域の率直な意見を伺うことができ、課題等の共有できた。		
		幌加内町そば祭りでのPR支援	平成29年9月2日・3日	旭川開発建設部、ルート運営代表者会議	道路事業のパネル展とあわせて、PRの相乗効果を狙い、観光客が4万人も集まるイベント会場(幌加内新そば祭り)にて、シーニックPRブースの設置を支援した。上記のTEPPEN-RIDEと実施時期が重なったため、ルートメンバーがブースに貼りつくことが難しく、パネルやパンフレットを事前に収集し、当日は開建メンバーのみでの対応となった。		
その他							